

***** アカシア祭り と 国際観光都市大連の魅力 *****

もはや大連の代名詞ともいえる「アカシア(槐樹、槐花)」、1989年から毎年5月下旬に開催されているアカシア祭りには大勢の国内外の旅行客が大連を訪れます。昨年は同時にジャパンウィークを開催し、一層の盛り上がりを見せました。今年は5月25日から開催を予定しています。

大連を彩るアカシアは実際にはハリエンジュなどが含まれ白・黄・紫の、藤に似た花を咲かせます。現在はプラタナスに植え替えられたところもありますが、「アカシアを愛でる」をテーマに開催されるアカシア祭りはまさに大連の文化であり、労働公園や五四街・民政街などの「アカシア大通り」では芳しい香りと共に花が満開となり、大連人のホスピタリティと相まって旅行客を魅了します。

大連への訪問客は歴史的・地理的關係から日本人、韓国人、ロシア人が多いのが特徴です。統計公報では大連への外国人訪問客が延べ約84万人であるのに対し、日本人約41万人、韓国人約14万人、ロシア人約6万人が大連を訪問(出所:大連市旅遊局)しており、如何に日本人客が多いかがわかります。日系企業が集積し、日本各地からの直行便が多く、海鮮料理が名物で、中国東北地方にしては冬場もそれほど気候が厳しくないといった様々な条件も重なった結果と思われる。

歴史的スポットの代表格、旅順は一定の年齢以上の方々が約半日かけて、二〇三高地や水師營、東鶏冠山をまわります。市内では中山広場や旧日本人街(再開発中)周辺以外にも歴史を感じさせる建物が随所に見受けられます。

季節感を感じさせる行事が多いのも、国内外の旅行客を惹きつける要素です。

1~2月に「花火爆竹迎春大会」「提灯祭り」などの春祭り行事、大連の春、4月末からは「桜祭り」、夏は「霧の大連」の別称に示される通り、フライトが狂い易い時期ではありますが、7月下旬の国際ビール祭りでは各地方の名物も屋台で味わえるとあって人気を博しています。同行事は1999年に北京で開催され、2002年以降は大連で開催されています。第10回目にあたる2008年度は7月17日~28日に開催予定です。また、沿海部であるので、海水浴場が多いのも特徴の一つです。水泳が義務教育の内容に含まれていないので、大連人といえども泳げるとは限りません。水遊びを主体として夏の海水浴を楽しんでいます。8月末にはファッション祭りを開催、ビジネス行事としてはアパレル紡績関連の展示会がありますが、パレード等一般参加者が楽しめる行事もあります。秋は郊外の大黒山(標高約660メートル)や旅順での紅葉狩り、冬の行事としては昨年新たに温泉・スキー祭りが加わりました。大連

では昨今の美容ブームとともに温泉・スパ施設の開発が進み、大連市郊外のスキー場とあわせて、今後の観光スポットとして注目されています。

経済技術開発区といえども観光スポットがあります。UFO型の展望台からは開発区の発展ぶりを360度の角度で確認できます。市内大連駅から開発区駅、保税区駅を経て到着するライトレール終着駅「金石灘」周辺は国定リゾート区であり、季節毎の変化で非常に挑戦しがいのあるというゴルフ場「金石灘ゴルフ場」もあります。ゴルフ場は長興島等にもあり、日本、韓国からのゴルフ客が増加しています。

大連には大小あわせて80以上の広場があるといわれています。その内、海に面した星海広場には各種展示会・催事の主要会場となっている世界博覧広場、星海会展センターがあり、ビジネス・文化の重要な交流インフラとなっています。治安が比較的よいと言われている大連では、夜間に散歩する地元民をよくみかけます。とはいえ、夜間の外出は日本、中国に限らず注意が必要なもの。最近では日本人駐在員が夜間のトラブルにまきこまれるケースも以前に比べて増加しています。旅行客、駐在員に関わらず外国にいることにはかわりないので、自己防衛が必要です。

大連の観光スポットは、旅順などを除き一般に「日本でもある」施設が目立ちます。しかし、一つの都市で個人旅行者がモノ・サービス両面でそぞろ歩きを楽しめるところはそう多くありません。大連は街全体が観光資源であると言えるでしょう。今年は特に北京オリンピック開催の年でもあり、「奧運到北京、観光到大連(オリンピックは北京へ、観光は大連へ)」を合言葉に大連市旅遊局を中心として対外的宣伝活動に注力しています。《岡野》



(上) 2008年2月の労働公園の春祭り行事会場



(右) 市内各所に設置されているアカシアの花を模した街灯